
「第18回・19回特発性心室細動研究会特集号」発行にあたって

特発性心室細動研究会 (J-IVFS) 代表幹事
水戸済生会総合病院
青沼和隆

特発性心室細動研究会 (J-IVFS) は、2000年に開催された第17回日本心電学会学術集会のサテライトシンポジウム「Brugada症候群とその治療法」、翌2001年に開催された第18回日本心電学会ファイヤーサイドカンファレンス「Brugada症候群と類似疾患の病態—有症候群から無症候群まで—」で全国レベルの共同調査研究の必要性が議論された結果、2002年に発足しました。本年で21年目となりますが、現在も全国69施設から登録された750余りの症例の前向きに観察研究を継続しています。これも本研究会にご参加いただいている皆様のご尽力の賜物であると深く感謝いたします。

さて、2020年2月15日に開催された第18回特発性心室細動研究会では、「Brugada症候群に対する substrate ablation について」をテーマに4演題、「Type2および3のBrugada型心電図(薬物負荷においても type1 を認めない)を有す症例の臨床的特徴について」をテーマに3演題が講演され、熱心な討論が行われました。

また、2021年2月5日に開催を予定していた第19回特発性心室細動研究会は新型コロナ禍の影響で1年延期となり、2022年2月19日にオンライン形式で開催いたしました。「遺伝性不整脈(Brugada症候群、QT延長症候群、カテコラミン誘発性多形性心室頻拍など)に対するS-ICD植込み症例におけるトラブルシューティングについて」をテーマに4演題で討論が行われ、続いて岡山大学学術研究院医歯薬学領域先端循環器治療学の森田 宏先生に“J Wave Syndrome : Up to Date”と題してご講演いただきました。

本特集号は、これら2回の研究会の発表内容をまとめたものであり、Brugada症候群を含む特発性心室細動の成因・病態・診断や治療に関する有益な情報を発信するものと期待しております。今回の特集号が、本邦の特発性心室細動研究の一助となれば幸いです。ここに発行いたします。

最後に、今後も本研究会の活動に対して一層のご協力をお願い申し上げます。

2022年12月吉日